津よと敵

更に各要

地石頭、大白朝車道

路空建設する方針である

題の外、種路の建設も警々行

南京防備

尔

全滅的崩

壞

R

頻

す

在り

流には水上まりの産弊を阻止

北支の政治経済・金融・産業 骸以来頭京の死命を前漕朝末等鴻章の建 路着个回復の軌道を邁進 2豆把ぬ番圓が封鰕設備豆施するため 多数の船船とジャン

報時丁然尔班

北京廿九日)北支地方の実備は迅速ある設置の話割と を好へるどのとして注目される、 を いるとのとして主目である。 十一月末に於ける北支の維持会其他の此死的努力により今や面割を一新しる北支の維持会其他の此死的努力により今や面割を一新し名

方

津浦面線と日本軍占領地域内と代軍の県敢がる獲興作業にと代軍の県敢がる獲興作業に 全然復旧するに至りた、飲 氏に北京の周辺にはこの一 治安振兴作の第一に挙げられ 金融通 貨 の安定は 允融過貨

工作によりで 支那風の破壊 の如果で牧めてのるが、今後路完成治安維持の上にて絶大で門側にお百千日に及ぶ補重

号二十六百七分

交

運

事変中九十二 元内外に色路し 例外がく治安維治会が成立さ

がカス あるが、 恨本対策から心要 を叶はれた湖市の融通とを掛するための が るの 好調 五特 旅山に 中央機関の設立に関し Ž. 殿近旧に復し殆んど

地 安 河南省彰徳に現の概定なかず近に至のた、 古領地前内の要地には殆んど皆自治政府の殿のとして皇軍 て立意見全く一致し、産業問発 でえ日本との間に満足がず心関かる日本資金の導入に

和でく

級甲一線 陣地 だる 廣便 友攻撃 報省境石 突破し、 商泉 皆後の 八軍 廣德五猛擊中 た各部版は觀苦を聞してを上海けれ日)長典より即進 狀態で同地住民は今や日本軍 の守護に集まりの、ある

那毎日三週間の帰城 屋続けた順中世寺ロハザオー山上の支前による 赤棚の垣宮に大原 太原東南で征逸人牧出

女に見るすいた津瀬治線の要取仕務に当りてわる。 郊に火い地方沿定の維持、暫定的行 の牛が近べられてゐるが、 概範的に東出す華と がり 救済 民牧清には 治安雄 静脈合会が 建設」治安維持の枢軸 たらしめん に防共親日自治の模範敷村を に順久的施設としては各縣内 考慮する模様 ろ当司の寛向は てと列国に対 万一日本が正式 の如うで る影響は充分に に西奥五枝牧し 外络 ある。

上してゐる、

Ē 常州左占 預

領区より E 禁山 **成我軍比今朝九時宣與五** 田等の離部隊は宮央縣 項辦州左各々完全口口 た 日)上海軍代表に

山東省館陶占

興徳たる 可容の織に徹退を開下後三時頃より南京最後の防 旅占领 宣兴西方 敵主力 厚地 探問の敵 定 は早くと大動機し一部は本日 後直ろに両 模様でおる 京新運面進 の計量は廿八日午後必に館局

百占領した、

萬福蘇軍の掠奪暴行

草暴行が公然と行けれてわる 打ち祝し勢徳西方に香伏、崇 線で一敗血に述れた萬竈騰軍(石家莊廿八日)河北省の戦

廣田外祖を訪問

與两斯於有力者と遊戲 即根本非的時間克 虧 北製の技那飛行機

駐日英米両国大使 西海県接牧に関レ

外相は現地に於て目下祈衝中を有する旨傳達したが、広田 大便は廿八日平 後二時相節後へ東京廿九日) 駐日 英米西园 日五接受したり がる 旨を 近べ、 上海ド於ける して広田外相を訪問、帝國の 海川接收山區上 包政府の通

古原長派科上共に近く倫 有力者と自下重要協議田 は香港の加数代表及の毎 赴〈模 象の倫 極的的 と対は (香港廿 敦女 た日・ 牵 サ七日マニラ 中

内の日本軍の千で救出さいだ 祖庭人丁数名がけ 七日大原城

近衛首相想談

五種の 統配声山野に轟き

渡烈

及得て懸命の抵抗を試みのい

3

敵は新土の増援隊

りてのる

た於て 首相は世八日夜大阪住友別(大阪吐九日)晒下中の近 ること互明かにした。 取のため挙りて政府至支持す した結果

八石家莊廿八日》仕縣方面す

111

東省衛随に向って進撃中

宋子文派科匠く渡英?

見りれ 援助を要請するとのだ いてゐるが、奧は宋一 様で設面は英国に対し飛科と共に近く倫敦に の準備のためと T.

下関係者が取割以中である。満載されてゐるの左揆見、目 国製支那向り飛行松部分品が (カナ屯 港の丁 合連戦闘武器の輸入に狂奔し国民政府は欧州各国に泣りき てわ ろが・ (神戸せれ 丁株 休門船マルデメルスク 船館内に発見 船船口上置外区之米 をヤサハ日神戸入 四)所不應以出

ンケスアプレッション **製造販賣** 新型ケアドーレス

Man a wind the second

し石川野に対 みでありた、然

*

KEROGAS

ING. F. STUCKLER UT. 51-3252 PACHECO 3260

上葡萄日品致能し本と 20 仕事は入念 迅速、 人間に数多の顧客互 販売致します、 ケマドール修繕、部分 ŧ 御一報次午至急分 す

常湖

敵 0 南 京 防 戰 罗

東は江蔭、常州、 西南は廣便に配陣

の人外留在 望要を難避 (上面サ八日)南京衛以司令商生智は廿七日南 南京防衛戦器につき左の如く言明した 在 留外人に対し至急避難方を勧告すると共に

五以七京 軍の遊撃を防ぎ、 方 強力がる陣地を構築し 電沿線よりする日本 概としては東は江 陰 衛州を繋ぐ摩地 南京防衛の 西南は広徳 和一 りの退却部退が南京に雪崩れ 瀬江可 進撃せんとする日本軍を食止 で大湖南岸より蕉野に向のて 間して文に当る める計画である。 容の織に指説部隊至配 又不二年は 但し前歳よ

支那側 烏 龍 L 砲台附 近 五 封 鎖

たけし其の京より十六 上海 り十六哩下流の楊子江上舟龍山地台附近左封鎖する 廿八日一支那例は日本軍の連撃五田止するため南

I

ヤンクが頭輛品輸送に大砲乱 一近の楊子江上に敬十の支那ギ 五星してわだが、中に英国々 英国汽船從事 熙日軸送に 廿八日) 廿七日 八上海 應じ 川内 敬退を要求してあるが、 軍は かそ 族を掲げた大型、小型 る旨を通告した、 英国側に石船舶の一定期 根が三隻あるので、我們けた大型、小型の氣船 がい場合は断子蝦撃す

真胡贵州

百一合計三百被 出算してのる

I

मग

H

追前後二

回た

州に堕り、江陰方面に於ては常野中の我が弥除は敗敵の塵撃 廿七日)大西北岸に作 江陰方面に於ては 陽、學國の敵陣地に廿数回に重要據臭たる金遣、 展 徳 漂 俊全力互挙ゆて南京脊後の敵崎北の陸勘航空隊は廿七日平 TT UZ 尚北が陸西航空隊はせ七

1:

海

空軍附近各地を爆撃 南州・江陰に 迫る り攻江撃 その東側乃以南側地区の敵丘 |怪点の | 医離は二里に短線

山麓河

平

無湖

軍軍 0

徽

Rで今日鉄に鉄さいよりで、代配によりで、代配によりで、代配に

京南 四 容 华 薛 0 小 深

O TO

安

ずしでおるか

廣德

TE

安

部がソ雅製には

税へ

金道

左約砕した。 がの後方連絡交通路を破壊、がの後方連絡を破壊、がの後方連絡

く到着、飲れと甘鯛省蘭州で概、之は屋れて最近に至り酒

立てた上、その大部は面安

は一刻と早く避難せんことを 希望する む危険があるので 在留外

大湖南岸の状が部隊 安徽 省に突入

解がし 日午前十一時柘林石石領レーけて進撃中の〇〇部隊は廿七 部は長駆ののド向け建撃立足隊は宮興を制屋すると共に一 占領の余勢左駆りて宣興に向(上海戦線兵興廿七日)長興

(上街鄉蘇湖州廿七日) 長興

皇軍進路杭州湾上陸

3

より 隊は 街道五個

近一帯の岳陵に多数の山は色々短縮されたが、敵

今日近三百台! 支那更に二百を要求

ン肝の対支飛行松供給

撃 五続け、浙江省五突破して 離は愈々短縮されたが、敵は附近に到達した、廣應への距 安被省に入り正午過ぎ蕪桐堂 方の十八里亭五占領の後、 の部落を抜った長野山田町部 廿七日午前十一時更に面 進 秬

西進 レマ四安

明した 支那側は更に飛行機二百台の

L 伊馆村 武官唐文縣 左 の交渉に 当りせてわ 月下モスコーで駐ソ 供給支い所に要請 支那丈便務金敵、大 7 #軍事当司と

お激戦を展開してゐる、 左極する整陣を 後より 死物狂 CL 情築、廿 八の抵抗を試 七日

河南

省自治政府

立式挙行さる

南京方面に廻されたことが判核に配属され、一部敗十台は 陽の而空軍部隊と航空学

だりし 的有で対立が 口雅符 ガイシウ 石政権打 出たよ 名望家で へ移使け 自出政: 此度河 リ愛田 く、政権 がお 日 税 の 抗 の か主 席に載された以上は及 思生のかした、 今度私 平あり河南省に於ける 事にがり廿七日の名に先んじ自治政党 府が生いた事は大き と其の暴政にすっか 日を国足とする南京である、ソ麻と節の 南省民の要望の結果 鯏、防 七日)皇軍河南省進 不都合は云小近とか ある、式後同氏は語る 主席に接動され 3 は具佩半の下に 郵便城内に挙し 后出 河南省民 共五萬 の治安は完全 糸とし 1X 市長覇 歷府 E

支那国民の精神動揺 * *

約に基グラソ州 する武器協約密 可侵条約に附随 よれは、ソ支不 外人筋の確怠に

る敗戦と九ヶ国会第の矢敗に 本 本 本 本 本 本 本 一般支那国民の精神的動搖 (上海廿六日) 商北衛原上於

はず

下り立旅が河南省の

建に努める政意である。

mmi

神変発生ス 「私は

上海々関事実上我が监督 下に置かる

実上完全に 牧園の麓瞥下に置かれる | 海淵に対する牧園の勢力は|乾と拡大1 (牧主仕の 壁斯に 邦人互仕命したの 之上面廿六日)兄に支那側は自発的に上 北国の益督下に置かれ 飲態とありた 之左端階として今後 りべく上海々 段は事 海海県の次席及び

支の支那只七十八大方 に歸順す

北

七十二共に帰順 〇石 るを培り、 廿七日午後風脈に在家柱廿八日)宋哲元軍の某有力 #12 帰順を誓りた、 る代軍に出 者は排日抗日の無意 頭

てが沿に線の共防 まで日本の態度を支持 日支紛争に関し側近者は浅らした

上總統最近の感想

れば、ピットラー総称は最近側近番に田吏約率に関(伯林 サゼ日)最も信頼すべき 方面よりの情報によ する左の如き感想を改らしたと云はれる、 一支那共産党を含む抗日勢力を過大評価也ず、田本の 「防共の機に沿ふて節まで日本の態度正夫持する 國結か、精神力王絕俗信賴する

從って独逸の対式政策は回本の方針に到の兩機對するしめるであらうから蔣介石の設落は今や財命のは題と めるであらうから蔣介石の沃落は今や時間の问題である 「国民政府は容共所ソの缺れる政策多株用したが、日 本は问题の根本的解决を期して軍事行動を徹底也

ナナ経済選奉者フンクスに代る シヤハト経済相退き

は経済、貿易の領域にたても のて来おものと思られる、殊愈々本格的に自然の軌道に来 ヒットラー総統の抱く右事変観退さコンクかえに代った結果 れるシヤハト博士が経済相を 事変を不快視してわると伝い 今回防共協定は又今次の支那 問題等派買発) に於てる日本と協力方針五隆 むと期待され、東に対支質易 整松充来は従来エソ客易に進 来った日満独三国の貿易の調 方針だから、位重使節の勢へ 立するここ、あらう、(安」 物的交換医本位は伸進を計る 質易に於くと

英國の策動を排し猛省を促す 対英國民大会を開かる

秋樹へと進み、既に対英国民は日を逐ぶで昻まり従来の親る策動に対し我が国民的倒心(東京廿七日)英国の老絵松ま 大会は数度用かれたが、更に一 園広場で開かれた、定刻前が盟主催で対美国民大会が芝公 大学生や婦人艺交へ教方に上 ら続々と神かけて広場を埋め

ブナチ経済五 選奉する人で にフシクは先 又次即、佐藤中将、安井少将 英国の共産ン府との絶縁要求 頭山酒始め山本特二郎、小泉 を終り午後五時頃解散したの発声で万歳を三唱して大会 倒の熱幹を振った後、頭小満 恋が次々起って 英国反省と打 激励電文を満場一致で可決し の三ヶ條を決裁、並に軍軍感謝 ヶ国会議退脱による最正中立 国り対支援助放棄、英国の九猛省を促す宣言文王朗続、英 し金大なる決意を以て英国の 聖戦に対する英国の策動を排 宮城逐并後三井萬和座長とし カラちに 同催、先 で国歌合唱 長城は秋風に解り万雷の拍き 加藤大尉ら二十四名の各派有 て常につき 新事に入り、我国の 正面演壇の両側に立てられた

ある 出征陸海軍將星夫人達の優しい企 支那事变皇軍戰死病没者慰愛の

頻發するン新の不法行為 我方覚書是以下嚴重抗議

举國的大法会 芝増上寺で営まる

象两院鐵

遺族代表

取買代表、全園遺族代表加納部隊長夫人、貴

があり、

司令官合夫人、井上柳軍金長があり、誦殺ハラちに出征軍婦人、 国防婦人四会長の弔辞婦人、 震衆 歌門院議長、愛国

司令官各

表等の地

香があった、南は思

と共に事態改善方正 最重要請書を手交して注意を喚起する 職極まる不当行為に就き、党 在京ソ肝和大使館に対し、在(東京サ八日)外野当局はニナセ日 他最近頻発するソ所押の非常 津城帝国総領華館員の病気に 対し、斯医師の往診推否、その 独逸船で鹿島立つ 京府、帝都防空協会後接の下 午後一時から各大臣、代理正地 って大空から英麗を尽った、 在架の飛行被上から帝都は各 日午前九時半京都智恩院门跡上寺で盛大に営まれた。この は二十八日午後一時半から芝増 法会は、內勢、文部两省並以東 变皇軍戰死者病沒看慰靈祭大 心遣りから企てられた夫那事 好展夫人の筆にあった蓮の花 軍将軍連夫人達の優しい 長谷川、大川内等北征茂為

送程は一路独逸に向った。 虚船グナイゼル号で各方面の飲

二十七日午後二時神戸出れの独れのユリー夫人及び令練を同件

(神戸廿七日) 東称茂徳は独造住

戦死者遺族の扶助は 政府当面の重大问题

力を挙げ、紀に思給法の成正重要问題としてその対策に全助問題に就では政府は当面の販売は当面の すべしとの意見が有力化しつ て思給金庫法を来就会に提出 遺族に対する應急的扶助とし これらり金が下附される近りの増額の方針を決定したが、 による思給金並に遺疾状助料 因給金庫法来議会提出か

治

盗はて医学を終めペルーに 追はて西学を終めペルーにて永年 診療はコステル博士はラモスメヒア病院の医師、独 淋病·梅毒·皮膚病·胃 察卓如費用低 コステル内外

ドクトル・エレーラは 座婦人科專 间 医

肾職 小兒科諸病診察 は確します

科医院 腐·心藏·肺臓 AVENIDA DE MAYO 1334 TOPAND LI. + 37 - 22 35 (DEIT A 19 HORAS)

CONSULTORIO MEDICO DE Rosten y Dr. Herrera

地無きまでに増上寺境内に参郎、清洲国大使代理を始め来 と式は始まり、近衛首相以下 め在御軍人会長井上陸軍大将 集、智思院门跡が導きとあっ 一條公、丸山鶴吉、小泉又次

田時過ぎ 陸続とし 福を甦め

漸くこの学園的大法

て指上寺境内を握め る一般国民の焼香は

会五終了

73

| 海軍検報國号

の敵納式が挙行される事にあった。 更に女八日歌 風級五級 る就次の赤誠として今日这時軍 合新高四十六极の多きに上って 省八献納された海軍被報国号は 東京七日)大空の守りへ寄也

國際民 軍兵器の名命式赤誠の結晶

兵器の魔 九日初田 台その他 れること 极十二概、 戰車五台、裝甲車廿二 製作を思いであたが、この種形行ではその後当局の午でそれが られたほ (東京廿七日)全国から佐軍に寄せ 民赤鉄の国所献全に就 にあった、 大の命名式が挙行さ が出来上り、食々甘 後行場でこれら敵納

本請る

大戦の後を受け荷動き旺盛を

B

一九一九年以東の大出超年度十ヶ月の亜國貿易

但し傾重対處さ要する今後の動向

り、昨年度十ヶ月向の出起額の中一億ペンの増大を見せて居り、市年度十ヶ月向の出起額の中一億ペンの増大を見せて居り、市の対外貿易は昨年に比し れば、本年実ナブリリーの概要を発表したがそれに依めの概況に就いて統計局は過りますがある。 午と云ふ英大額五示し、欧洲度は一段七億六年二百五万八 易の概況に就不年度十ヶ月の 頼は世三億二百廿七万六十ペソ 類に 昨年度十万月同に比し輸出 かと 於とは三億五千万ペソ は七億五千万ペン、輪 が、その同輸出は鈍にし輸入す、その同輸出を示したに過ぎあるといふこと、、後の四ケび輸出量の増大に基くものでが輸出量の増大に基くもので が増加して来たと云かことで ある するは至つた、本質に変えるは、数字を除いては栗国貿易史 本年度上期六ケ月向の所産で七億四千万ペソニ云ぶるのは 而して此の英大亦出起に就 注目 至った、 さるべきこと 出超額の強ご全部即方 は、こ

入類で

15

十二面七十一万一千ペソと云いかだ一九一九年の出起八億 本の亜國羊七買付に便宜を然かべした 説によれば取立て、杞憂すべふ理象はナシオン紙の経済論この下期四ヶ月の出危滅と云

日亜通商協定統結を興論支持

る羊毛輸出促進のため適策を農相宛、日本及が独逸に対すが亜回物産同屋組合では週日パタゴニアの農牧組合所盟及 買付の便宜を計るべきことをし、以て日本に対し亜固羊毛 世られん事を要望、特に日 商協定の結結によって解消 つ、ある島替上の支障を日亜 は関しては田本側が現在象 害を蒙りつ、ある事実を指摘招き、従って要国羊毛界が大損 に要望してある。 対する亜国の富者降壁によった国に養意と養明、対日、独日 提唱したが、此の気に関しせて日 1 で其等の国の学七寅付不報を 紙は何れる論説極に於て右の 速かなる適策実施方を当局 ラプレンサ級及びラナシオン 件以上、社学児童の母的はこれ教五名以上といふものが三千以上の阿屋で一部屋の住居人の四十一のまでは袁貨五十ペツ ロサリオ市に於とは市内質家 四十一がまでは家貨五十ペン

住 ランプレンサ紙のこ住居改善に関する 居改善四 の社 3

は各地にもあり、武市は勿論としてあるもので同様の聴観住宅遊及が家貨高をその原因 た数多の小屋が株立して居りだ如何はし、材料で建にられた 扇市の入口に泥、ブリキ、祖の局市の入口に泥、ブリキ、祖の局市の入口に泥、ブリキ、祖の場合は 及び当局の注意を映起し、院及が住宅強に関し一般の興論に於て亜国に於ける体層吹喜っていませいのは説 をの あるとの見地から、 堀立のは 保健 道徳上の害悪大ぶる たが、元来此の小屋の統出は 作禁止の旨を発表するは至っ 小屋の撤売及び今後の小屋塩 而もその狭隘かる宝には五人 要左の如く述べてゐる。 破して屋根とし其の下に廃台を対べて住人であると云ふめ を対べて住人であると云ふめ を対べて住人であると云ふめ を対べて住人であると云ふめ は於とは全家屋の七十の以上である。更にコリエンテス市 れるコルディヤエラ近辺のエス日追歩発展して行く町と云は ルエステーロ・ラリカハ、カタマ 全国各都市の発展を示するのこれは一面人口の増加若くは である、最も甚だしいのけ逐 儿刀何れ已同樣或はそ此以下 すら の不快ぶるはロサリオと同様 クエルでは、樹木口毛布を張り が最も少野とする衛生設備は 市に入るに当つての牙一印象 が市街をとりまいて居り、市に於てる四十戸以上カ小 飲けて居り、サンケアゴデ

及ほしたる影響をの出題が世界的不呪の亜国に とじあると見られて居り、亜ある今日相当警戒を要するこ の下落傾向を示さんとしつゝ 場に於ける豊産品價が終 世界 微 湖岳下して居る。して行く少要がある、との観 らと云って、一途に好景氣来る 現象を新次解消しつ、おったか贈買力が減退したと云ふ酸行的 今後の動向医話視し隣直に対處 と書が上るのは考へものであり 於て工業品勵買力に比し農産物

建築統制政策の軍正を要望 るのである。 長屋 中心 り経済末化り 又、 亜国中部 地コルド 8

べきである」 ポール・コード

び武市は飛来、 向を通したが、去る廿七日南和は発翔し去り、同国に三日 テビデオに向け、出発、アラシルを要国で休め、それからモン エツコ飛行場に一息ついたり 際は敵十分間を政市郊外バケのラウレンケレーロ号、往航の を確立したホールコード操縦 里、南米周二日の空の旅、華々太田洋を夢の南に横断して四 みで直ちはアンデス起えて智 欧洲南水連絡のレコード 武市で休賀 来る四日定翼

麗人百人—

りするなな放棄 医にし、以外の見地から維持しつ、みる得の見地から維持しつ、みる動し、政府カリオ」 動し、政府が政治上の地盤模略に不動産に対する政資を換的に建築費用の低下を計り向 で住居改善、住宅産り みに止きり 根本的解決は期して市の管区域外に移転するのを発命する場合は、小選は最 難いのである。 政府としては此矣に 解消五計

CASA NAKASHIMA TEMBER 50 -2363 - DEVOTO がき方は出初れにふ すから末だ御設文格やに販売致しま らめ内に至悉御は 文を願います 例年の通り新年用 新年用カレングリオ 其他景品用各種 カレンダリオ・ウチワ 中島商店

だッ今度の発行は素敵ごした。今度の発行は素敵ごしたする。こと、ホワたが、コードは中七日本市到着に際し飲地はラウレン・ゲレーロ機を飛地はラウレン・ゲレーロ機を飛れる。 ルクの途グログ 花の都四里さして帰還飛行 アイと南米の空き征服して アルゼ ル被公軍司令官の招き 一下始め来買は人立 つくことにぶったが、そ

不景気は終りました タンシング 御遊照は是非! サーヴィス万矣 THE COMMENT OF THE PARTY OF THE 舞踏場は踊りよく ゲヤズ・タンゴニ 他のオルケ スタあり 268 L. N. ALEM

たよ レンナン、 ケリし

新極喜盛氏去る廿六日 ロサリオ市より出述

遺憾ホ帯であってサンタ・フェであるが、保健上道徳上甚だ

4

の当選を見た

[新役員当選者]

勝田長三郎 石川芳範

片并格次

望月豐吉

既報の

重 総 T. ゆる和品の 0... 方面 滞垂中の海外市場調查園の使命 への 販路院拓き計 資結 3

てゐるが、仄雨するところに方面に至り調査の今まのばしれを体める暇も広く直ちに各ホテルは投窗、長途の旅の渡ホテルは投窗、長途の旅の渡 は去る廿七日人港のモ 西洋岸班旅が小太郎氏西洋岸班旅が小太郎氏

於ける此産過刺品のはけ口を諸輕工業方面製品の休戦後は 又は給貨品の消費市場調查の 来り如き軍に日本繊維工業品依れば今回のオガミュー つくると同時に、之等工業に かしつ、ある本部重工業及び みであく、主要目的け現下戦 於ける過剩生産力の海外進出 時体制下に於て異状の発展さ れば今回の市場調査国 は從

如人商工省派遣

庭の本年度総会正賞品投與式

出席看百余名近末稀なる盛 中村陽三 过 举雄 大野幹三 (次矣者) 久慈 忠 本年度賞品投與式 会

定り如く去ろ廿七日午後四時

日本庭球供樂部定期総会日子

挙に入り崩壊の結果左の諸氏 清場一致 可決、引続さ 役員選 側提案の「将来のための土地 出席の下に開催、飯野幹事のより 同民樂部に於て五十余石 き承認、次いで議事に入り役員 会勢、安東会計の会計等それ 購入研究委員会試置」の件を ぐ報告あり一同異議かく之 横城三四 雅 被 文 夫 小川馬 いビールの満さなき、やがてあす新駆走さつまみあがら冷 はれる日亜両国取りませた山 あり一同乾杯、それより百余名 0 にランキング各優勝者へ左記 辞あつて本年度チャンピオンシ 以来の多数出席を得て誠は乾 片井氏より同侠楽部初まって コートに集まり記念撮影をあ に上る会衆は次からくと運 ツア及び春季トーナメント更 びにたへないとの首の開会の 定期総会終了後八時より一同 如く賞盃、黄品等の検察 終ってルンテの席に着く、

にかける造船、発電等の事業校童工業の発達して居らずいで 完の歩き進めるわけであり、 質の可否についてき充分調査所

命を帯がてゐる、即方比較的さも国ざして力準備調査の使

相当の期待をかけられて派遣 たものである、

左訪同、最後にベネスエラは向ふ答

余り振はあかった日会大運動会

明代理公使始め其他公館員、場に於て南催、東南席には寺 市場調查員站氏、各国体代表看 偶々来亜中八商工省派這海外 廿八日朝からドックスール運動の陽ざしにがき 薄曇 りの去る日会主催 煙術大運動会は 初夏 南米水牵川合氏夫妻、安永氏夫 他術大運動会は初夏 はがき薄曇りの去る

柏車をかけるタンゴカリズムにレス移り、初夏の夜の情緒に勝の出来上ったところでバイ 台 本年度チャンピオン(シングル) して踊り午前二時頃散会、 (受賞者)

知後藤貞実氏 全賞 安田邦夫氏 俱樂部賞 C 村陽三氏、安田敬藏氏祖 俱 全盃 ムハンデイ付 (グブル)中 ▲ハンデイ付 八独 山本克 巨氏 果部盃 ヘハンディ無し 日級 即氏 全盃、已經 島川太氏 度チャンピオン(ダブル) 横堀三 横堀三四六 俱樂部賞 血本年 三本会長盃、 B級 大坪庄二 四代谷口博氏組 俱樂部實

一千米の覇者は森君、常勝の小津君三等落っ

接発送の新夜宣正取計らか

ひます、地方へは直 切れにふらぬ内に衛買 ますから御希望の方

上计数原先上

八百米園体対抗リレー深光組合に凱歌上る がからは出楊選手以外始人ど 顔が見えなかった、 れてかだ弁、蔬菜業方面の近 百名、又昨年の如く藤而を恐 般観象は乗外に少なく約四 人等の類が見えてわたが、一

半寺嶋代理公使場内に特数の 前の競技を終へる、午後季時 り切った日小校生徒の百米競走 マイクを通じ一般同胞に離別 々大運動会の幕は切って下さ 中村日会長の開会の辞みり愈 我の午に汗を握らしたから午 から頭次プログラム医進めて観 唱程に指格式玉行ひ、次いで れた、小さいながらも元気は 員整列、東日西国族 三国歌合 定刻より一時向通れて午前

モンテネグロ氏転居

左記に住居を定めらる してわたモンテネグロ代は今回 帰亜以末シティーホテルに假住い 市内アローデヨ 筒八五七、電話

査、武港より便船でブラジル 因に右調査国一行は約一ヶ月 上ウルグアイ、ハラグアイでも調理国に於ける調査を行った

この頃、様は幸のにもカラリ六年生山本功君の今に落ちた短波用ラゲオは幸運党四小校 叶物カリーファの南栗あり、長 気分漲る盡食に入る、午後1つ株物を亦し終ってピケニック 時より予定のプログラムに入り

たかの観五星し、 ケニ世姫御で人気はクライマックスに違し啖燥、経物、恋人探し等の競争と晴れてプログラムは 追み 長流は青祖に渡る 金は野原君の手に落ち、小学校 家族兄弟で出場した宮園細が られた百米(シケー銀行盃)二 りレーは昨年の覇着日青級振 商秀宮正至かけた四百米園体 百米(领事盃)四百米(武官盃 正奪ひ合い勇敢亦場面も緑展 対級八百米リレトの賀東父兄会 二番とある、小学校四百米公使 は丁花卉組合組と凱歌上り の勝盃は櫻井飾一君が得た、 ハラ方でも人気ある勝盃かけ げられ、続いて男子各種競技 前のアラレるがく二等、三等 等の競技には新人出でず三つ

期待日尼 が時局 飲る下げて自出たく午後七時散会 敵既婚 得した ツヶ強 うちA 得した、最後は例の如く 既婚しれインし奇嶋代程公使盃 王獲 製君を 祖対抗の細引か行はれた 反し三等は落ちスポー 祖に凱歌上り中会長面 祖さやつけて変が強 から若看の意気上り宿 三米も列高して堂々ゴ 看森正男君、二等の伊 一千米は常勝の小洋君

数(1時的) 電話は 七三一の八〇二 命移転 今回左記以移 ヴィジヤヌエヴア一三四三

競技の花形八百米国体リレ

留別会催さる

轉車大賣出し

れた 席し盛会被に午後七時同会さ 去る廿七日午後五時より南催 の公使官師は於ける笛別会は 既報- 寺嶋代独公使夫妻主催 在留同胞各方面の人士多数出

阿陀

の智様には特别割引

車が入荷致しましたい 製の子供用及が大人用

十三三(アベニーダ)ニニ九大 安東商会 内デフエンサ待五町O

下汽船發着

山彦九神戶十二月十日出版 山里 满九 神十月廿日出代 九(第一回船)十三月廿一日入港 武市 明年二月十一日入港 武市 明年二月十六日入港

國の制度並に経済組織

イスラス博士講演(統)

会の秩序型然として国民の安 安さ乱すかそれは全くぶく社 ても政争はあるが、国家の治れはホンのである、内政心於 鳥に努力する石腐の介子としさ抱かず、何州も亜国発展の 堺界回題三原に解決し、其 何ら国際的紛争を生了る恐 あるか、亜国は降和諸国と 噴火山上にあるが如き状態 尊敬 してある。 今世界は一個即発さ不か との関係は極めて円満

南部寒帯に亘り、産物は多種上北は羊熱帯より、中部温帯近し、その気候は債度の関係権威は航行の優ある大利に接 とき大体に於て生産地帯は海 てゐる祭天地である。 上ってみる・ 次いで、亜国の地勢をみる

殖民事業と無限であると云ふ の産業に将來性があり従って らずあらいる鉱物の採掘が明 加之・現在末明発状態にあ がれ、単口石油のみあり地下には無限の鉱物 金体を知ることは不可能であるりたりで対策を知るだけで更 ミカ外ミの広い豆園の土地をなどん~ 移住しつ、ある 敏時代をすぎアラシルの資本果を挙げる米作は大規模な試 於て不ら得る事業は無限に

尚国有地で開発とまっ

は極めて良好、前途有望不る とのかある。 人に棉花煙草マラ茶・トーモロコ オネス、等に於ては、最近さか 直轄州、チャコ・フォルモサーミ てるるとのか多々ある、特に 等の裁培が行はれその結果

そのである、特にコリエンテ 入随者獎励の一助とぶり得る 地僕の低原不ることは充分に 自治州と同様であるが、その 前途有望かることはその他の 工場等以我十の住民に職艺子 义発達亡時に織物工場 製油 社交俱兼都等あり、諸権工業 とのか現在では近代都市とし レシステンシア市は十年前ま 補表市内公園の完備、成多の では一少村落に過ぎあかった は非常不必めで、例へは主府 て電燈、衛生の設備、街路の てゐる。之等直轄州は箇 ナヤコの発展を助けたこと 近時の殖民集励政策の結果 はナランハの栽培に 3 7 とてかつり

不移民に将來の光展ま手約ら

助らてある。 実に亜国は外全工保証し、産業の発達を補

勿論主行に於てと有意義 丙· と砂塵のため生活不可能の地をその中には絶へず吹く強風をかるでれて居り度をかみざれて居り度が、パタゴニヤ州は玄漠利用不 幸福に生活シであるのである。野と化じて数百の悪民家権が デ、芝産して居り、砂漠が総 裁拾法になって、オリーブ・サトマ ドーサ ロコシ、棉花の試作か初果三拳 られてみたところか、乾燥地 かて あり、ラリオッハ 及びメン 「牧草・小事・ 原成 トモ 生治シであるのである。 州の不老の土地と橋世

られる。 べき事である。

ければ壁図の土地 は何州の方賞衣をとって耕作方法を終不 最近の内 の不足に依る更であると思ふ 一般展民が展業に関する知識 備によるるので 加へられたのはよいとひで、制施設に依って女介の改良を はその生産物販売機関の不完 後良不万移民により相当の 瀬及び 般物の販売統 あるが、之は

ケアゴテル・エステロ南部に於 寅の州と見做れてきた.サン 面に於てと好成績主上けるこ は疑びの余地かぶいのであ 何つは從東不思の地と みられがく豆園最 てある。

で捕魚が技術は分論、流復物於ける状態は極めて初緒にひ業に就で見るは、その亜国は 特権産業の発達を表でひを国場加することは、これに依り乗国内に日本人の移住者を 織と不舒屈さ、漢確物の種類整理の設備不く販売が関の租 何ら がく当事看同に競争不いため で非常に進歩るコナで居る澳ビホラボい。例へば日本に於 発展に渡するごとを思って日 本より移住看三飲迎し不けれ

もこの現象が続くらのと信む 白をぶじたとめで·現在と将来 格の上昇により得た適産が土 部分は高土地を所有しその價 ちてる とめである。ニニに忘るべ 事はその地衝の高騰す 豆園富豪の大

国に於ける農業の大大陷 謝金苓買の研究に依りアマデ大将三季夷畏とした種東貿易 報告者は亜国田の日本への輪 オ博士が起草された精細小ろ

葉に依り一層 拡張せらるでき 輸入と、発達した至日本の工と同時に日本品の範囲への 後中に年を日本は肉の需要を 望下あるニシーを論証して居り出張に冷凍因の市場として有る て居られる。 而して曽で伊藤清蔵博士と韓 増して居ると云小事実を正下

深くかって行くかである(を) こうゆう

半の養育に適し、こりより産 の核が地とあって、植物繁茂し れておろってある・ する羊毛は在水市場で賞談で 取地帯の谷面にはエスケル 万万か又一方面部アンテス

ろ道と多々あろと信でる。 ろと 田亜 両国向の 親易を増進したそ之等のことに就てたへ 人が豆国の土地に於て治動す さける金は砂かラず、又日本 一九三四年、ドルクガルシャ

奨励することにあるのである の外日本の連歩せる工業技術 は最上通じた事業を公思か ろ技術をよって設立した大う は重国将水のために輸入する 至日本人分子四家山、発達せ 必要がある。 從つて西無二云八万造船所 ラルは単に一例であってと

つて貿易の増進は 勿論のこと自然的に接近すべき境遇にあ こて不可能太三とではない! たその結果は非常に良好で決处ラリオハ州に於て試験され 各六面に亘り益々相互の関係 秦州養益の如きら同様で 就で日本は豆国と

般大衆の需要に当て来る状

せると同時に多数家族を繁栄かために新しき産業主要原本会社の設立を見るもとは異国 式る地方の住民は東た之三口 かられてわるか亜 国に於ては常食ととて用 にしたこと人不い着すらある

てスそれに関連して造船業を セろ工業が超るカケであっ

藏田書店

丁 ユヨヘアエケルデシカハビニ スカセーロス街一九八二

間機能の LEANDRO N ALEM 474 なりなり 多中国 サービス満臭りしてあくているをしいてた。

日本寫 世界美 字真絵画に「お紹介英、仏語の説明あり 現代古代果を七百余の美彦ホる 第十九 巻より廿八巻 近新着飲至の 百代近代 真画報 定價書出公 天術 左網點 生多表 萃版 術全集(定質書かり

LIBRERIA

HIWNGARA Alejandoro Borna

LAVALLE 365 U.T. 31 - 4513

コードと書籍

どんて文士言語出版 あ かりかえ 古月世日入港

Año XIV N.º 762

"EL ARGENTIN DIIJO

FRANQUEO PAGADO TARIFA REDUCIDA CONCESION 718

PERIODICO JAPONÉS FUNDADO EN

Buenos Aires, Sábado 27 de Nbre. de 1937

CASTELLANA SECCION

Redactor: G. YOSHIO SHINYA

la Guerra en el Oriente Japonés-Alemán, nosotros recordamos su verdadero significado y nuestra voluntad se hace cada

El afamado escritor norteamericano, Mr. J. te Gran Bretaña, no obran por simpatia hacia W. T. Mason, cuyas correspondencias en "La la China, todo el mundo debe de saber que ellas Prensa" son muy leídas, no ha mucho se ocupó de la declaración de la Liga de las Naciones, diciendo que el Japón no era agresor; sino la China que la provocó con toda premeditación, cometiendo actos violentos contra los pacíficos residentes japoneses en todo el territorio chino.

En la última correspondencia fechada en Londres, conmovido al parecer por las noticias dadas allí acerca de los ataques de aeroplanos contra la población civil de pueblos y ciudades en China que - dice - "ha hecho estremecer de terror a Europa", Mr. Mason defiende la política de Gran Bretaña, que "ha guiado el movimiento tratando de concentrar la presión moral de la opinión contra los aviadores atacantes' Es verdad que Mr. Mason no menciona al Japón y dice en un párrafo que las bombas tiradas por los aviadores chinos han hecho mayor daño que cualquier otro bombardeo, pero no aclara la situación de los aviadores japoneses que en ningún caso han cometido lo que los chinos. Es conveniente, pues, dejar constancia de ese hecho muy importante paar constatar la verdad.

Agrega, Mr. Mason, "que las potencias no han

adoptado esta actitud de condenar los ataques de aeroplanos a causa de ningún afecto especial hacia los chinos, sino movido por el sentimentalismo humanitario". Nosotros agregamos que el sentimentalismo europeo es siempre parcial: ella no vió-todo el mal que cometieron los chinos contra los japoneses, atrocidades, saqueos y matanzas en violación de los derechos de los japoneses adquiridos por los tratados y de los que les corresponden por derecho humano, porque le convenía ignorarlos, trat; ndose de perjudicar al Japón.

Es cosa probada que las fuerzas japonesas no han bombardeado, sino objetivos militares, y eso con previo aviso para que los civiles pudieran alejarse de los lugares peligrosos, cuando los chinos lo han hecho y lo hacen, no por equivocación como pretenden ahora, sino deliberadamente y muchas veces resguardados tras de un pabe-

Los juncos hundidos por los japoneses fueron utilizados para transportar soldados y armamentos y quieren hacer creer a los cándidos que los japoneses han echado a pique barcos de pescadores inocentes.

El escritor americano reconoce que el Japón fué la primera potencia que sugirió en 1922 sobre la conveniencia de definir los objetivos militares para los ataques aéreos, que las potencias no escucharon, pero no citó que el plan japonés de desarme fué el más real y práctico inspirado con sinceridad hacia el fin de la guerra, porque se trata de suprimir todo ataque, pero ninguna otra nación lo apoyó. Las otras naciones no tenían la intención de lo que decían; querían armarse ellas, evitando que otras sean más fuertes

Por otra parte, si las potencias, y especialmen

lo hacen por interés, y nada más que interés material. Si fuera cierto lo que piensa Mr. Mason, la europa humanitaria, ella debió alzar su voz y corregir la estraviada acción de los chinos que desde hace veinte años están violando toda clase de tratados, leyes humanitarias y moral internacional, fomentando odios al extranjero y cometiendo actos indecibles contra los pacíficos habitantes de otras naciones.

La culpa estaría en ese caso con Europa, que fomentó esa actitud china contra el Japón, provocando el estado actual que todos lamentamos.

También el célebre historiador italiano, Guillermo Ferrero, autor de "La Grandeza y Decadencia del Imperio Romano, que escribe en "La Nación", dice en su última correspondencia, que Europa está horrorizada por los ataques aéreos que destruyen pueblos y ciudades chinas. En Europa — dice — donde la guerra es una obseción, la gente se pregunta con espanto cuál será la suerte de Roma, de París, Londres, Berlín, etc. en la guerra.

Este anciano sabio, como el escritor americano, no critica directamente al Japón o los japoneses, que no pueden, pero narran las cosas de tal modo que pueden ser interpretados como crítica al Japón, por ejemplo, Ferrero dice: Esas matanzas son ordenadas, preparadas y ejecutadas en el Japón, como lo será mañana en Europa, por militares, oficiales y generales. Esos oficiales y generales no son monstruos; son hombres como ustedes y como yo; y si ustedes los conocieran en la vida privada, se sorprenderían muy a menudo ante su dulzura y humanidad.

Se ve, pues, que quieren criticar la guerra; pero al no aclarar bien la situación del Japón y la realidad de los hechos, queda mal parada la actitud japonesa que es justa y correcta ante la violencia y odiosa campaña inhumana de que ha sido objeto durante tantos años por parte de

Es por esto que es preciso hacer la campaña en todo el mundo para que conozcan la verdad, llón extranjero izado fraudulentamente por ellos. Inada más que la verdad, de lo que pasó y está pasando en el Extremo Oriente

OCASION DEL ANIVERSARIO DEL ACUERDO GERMANO-JAPONES

Tokio, noviembre 24. — El Ministro Hirota, dijo que: Generalmente los hechos diplomáticos provocan casi siempre la reacción. Ante este tratado se produjo el bloqueo llamado anti-fascista de los países democráticos o bien los ataques de los países que ya poseen contra la invasión de los que no possen. Este tratado, vuelvo a repetirlo, no se dirige contra ningún país determinado y ya que se trata de una solidaridad ideológica se admite la participación de cualquier país que sostenga el mismo principio"

Tokio, noviembre 24. - El Ministro de Repronunciado con motivo del primer aniversario del tratado anti-comunista, dijo: "Advierto ante necesidad de tenerlas para alegrar su corazón. todo que cualquier país puede entrar a formar parte de esta alianza, pero que no basta solasino que debe poseer también las suficientes fuerzas y voluntad para realizarlo.

El Gobierno Imperial no escatimó esfuerzos en condujo al estado actual, lamentable en todo tinguirse de los budistas.

Al celebrar el primer aniversario del tratado dero significado y nuestra voluntad se hace cada vez más firme para alcanzar los objetivos que lo determinaron al contar con el apoyo pleno de la nación unida".

Berlín, noviembre 25. (United). — El embajador japonés, conde Mushakoji, ofreció una recepción para celebrar el reciente aniversario del pacto germano-nipón. Entre los asistentes a la recepción figuraban el ministro de agricultura, señor Darré, oficiales extranjeros, miembros de la embajada italiana y otras personalidades.

Mushakoji, pronunció un discurso en el que elogió "el pacto tripartito que por primera vez permite llevar una sistemática lucha internacional contra el veneno destructivo del Commintern'

Darré, respondiéndole, declaró: "No necesito subrayar que el gobierno alemán apoya el pacto, sin reservas".

Roma, noviembre 25. (United). — Con motivo de cumplirse el primer aniversario de la firma del pacto anticomunista germano-japonés, las personas residentes en las vecindades de la embajada del Japón en esta capital realizaron una manifestación frente a la misma.

Los manifestantes vitorearon al Japón, viéndoe obligado el embajador a salir al balcón para agradecer la demostración.

Aprovechándose de la presencia en esta capital del enviado japonés, barón Okura, el ministro de relaciones exteriores, conde Ciano, le ofreció un almuerzo en su residencia.

EL AMOR DE LAS FLORES

Los japoneses aman todas las flores. Pero si uno de ellos pronuncia la palabra "Hana" pronuncíase jana) —, que significa flor, suele lesignar con ella únicamente la flor del cerezo.

Esta flor, efectivamente, compendía el código del Bushi o Samurai, que antes cae que sufrir el menor deshonor, como la flor del cerezo se deshoja antes de que sus pétalos se marchiten. Y nuestro país se siente orgulloso por unir en una veneración común la delicada flor y la noble espada, que se considera como el alma del Samurai.

El japonés admira por doquier el cerezo; pero le encuentra un encanto más sorprendente cuando, bajando en barca por el curso de un río, descúbrenlo sus miradas junto al agua o entre verles pinos, entre laderas de una montaña. También es muy sensible a la gracia del cerezo, que de lejos parece una nube vaporosa por su blancura y ligereza y que de cerca semeja el copo de la nieve. El japonés se conmueve al ver la flor de los cerezos, de noche, alumbradas por los únicos rayos tímidos de una luna velada. La efímera florescencia de los cerezos es motivo de grandes regocijos; los padres con sus hijos, todo en familia, salen a contemplarlas.

Aún en los barrios más pobres de Tokío no hay casa, por modesta que sea, que no se adorne ciones Exteriores al finalizar su discurso de hoy, con vasos de flores, colocados en el borde de la

Los budistas japoneses honrar a sus muertos con ofrendas de hermosas flores. En cambio, los mente obligarse a luchar contra el comunismo, shintoístas, rinden culto a los antepasados con la ofrenda del "sakaki", arbusto sin flor, pero

de verdor perpetuo. Según ciertas poesías antiguas, parece que los últimos años para inducir a China a formar nuestros abuelos ofrecían también flores a los parte del frente único contra el comunismo y dioses shintos. Sí, posteriormente, adoptaron las su rechazo y el carácter de su política interna hojas de sakuki hubo de ser, sin duda, para dis-

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Kaisha Osaka Shosen

todos los miércotes a las 19 horas.



F. W.

PAGINA DE ACTUALIDADE

Y VICE DE LA NACION

El Congreso de la Nación, aprobó en la Asamblea realizada el 25 del corriente la elección presidencial de septiembre último, y proclamó presidente de la Nación Argentina por el término de seis años desde el 20 de febrero de 1938, al ciudadano Don Roberto M. Ortiz; Vicepresidente,

D. Ramón S. Castillo.
"El Argentin Djijo" presenta sus respetos a los futuros mandatarios de la República.

MISION JAPONESA

Hoy llegará a bordo del Montevideo Marú, la Misión Comercial del Japón, que deberá estudiar las condiciones de este mercado.

AUMENTA LA EXPORTACION CHILENA AL JAPON

Como consecuencia de la visita al Japón de la misión comercial chilena que estuvo allí al principio de este año, y del nuevo acuerdo concertado después, la exportación de Chile, ha aumentado notablemente.

Anuncian de Valparaíso que salen de allí grandes cargamentos de minerales con destino a Yokohama.

LAS FUERZAS JAPONESAS SE ACERCAN A NANKIN

Shanghai, noviembre 25. - Las tropas japonesas vencieron la última resistencia china en el oeste de Shanghai, acercándose a las primeras defensas de Nankín.

CRUZADA JAPONESA CONTRA EL BOLCHEVIQUISMO

Tokío, noviembre 24. (Domei). — El contraalmirante Sanjiro Yamamoto, en representación de los católicos japoneses se trasladará al Vaticano y a varios países de Europa para hacer un llamamiento a los 300.000.000 de católicos del de carácter económico. mundo entero, pidiéndoles que se unan a la cruzada del Japón contra las infiltraciones bolche quivistas.

LA CONFERENCIA DE BRUSELAS LEVANTO LA SESION "SINE DIE"

Bruselas, Noviembre 24. (Havas). - La conferencia de las Nueve Potencias levantó la sesión, por término indefinido, a las 17,40.

ANIVERSARIO DEL ACUERDO GERMANO-JAPONES

Tokio, noviembre 24. - Mañana 25, con motivo del primer aniversario de la firma del acuerdo Germani-Japonés de defensa contra el bolcheviquismo será celebrado oficial y públicamente.

:Beba buen café!

con los mejores cafós que se importan del Brasil, tostados y con un 10 olo de azúcar abrillantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

ORTIZ Y CASTILLO, FUTURO PRESIDENTE residencia oficial a los embajadores de Alemania y de Italia, país hace pocos días se adhirió al pacto mencionado, y a la tarde se celebrará una manifestación popular en el parque Korakuyen de esta capital.

ARMAMENTOS EXTRANJEROS, EN CHINA

Hongkong, noviembre 24. -- Continúan entrando a China a través de Hongkong numerosos armamentos de fabricación inglesa, consistentes en automóviles blindados de la casa Vicars, centenares de toneladas de balas de cañón, granadas de mano y otros equipos militares. Hace dos o tres días llegaron también en poder de los chinos 12 toneladas de gases tóxicos, habiendo sido comprobado también que fueron de fabricación inglesa las balas dum-dum, de cuyo uso pretendieron, los diarios ingleses, responsabilizan a los japoneses. Estos hechos tan inhumanos que cometen los ingleses, que hablan tanto por la humanidad, indignan al pueblo japonés, que odia a la hipocresía.

Tokío, noviembre 24. (Domei). - Según informaciones de fuente didedigna, han llegado recientemente 160 aeroplanos rusos a Si-an, con los cuales los chinos están ejercitándose, esperando salir con ellos al frente en breve.

El día 21, llegaron a Hongkong 60 aeroplanos ingleses, también para el ejército chino, que se rán pasados de allí inmediatamente.

AYUDA BRITANICA A CHINA

Nueva York, noviembre 24. — El neonocido periodista neoyorquino, señor Miler, en un comentario aparecido hoy manifiesta que algunos chinos ambiciosos que contaron con el apoyo británico trataron de derrotar al Mariscal Chang-Kai-Shek y que esta ayuda británica, que se hizo efectiva desde el comienzo del conflicto chinonipón, estaba destinada, lo mismo que la prestada a los leales en España a obtener ventajas

VALOR MORAL DEL SOLDADO JAPONES

Berlín, noviembre 24. — El diario "Angliff" en su edición de hoy dice: "Cuando la guerra moderna se hace con tanques, aviones y otros elementos que la mecánica y la química han elaborado para la destrucción pareciendo dominar toda la escena guerrera, en medio, de ella, se destaca en forma imponente el valor moral del soldado japonés.

Esta es la verdadera fuerza que acciona sebre los elementos y suministrándoles su espíritu ha- a Shanghai. cen del ejército nipón invencible ante cualquier

AVIADORES RUSOS EN ACCION

Nueva York, noviembre 25. — Los fotográfos de la Paramount News, que acaban de regresar de Nankín, después de un viaje de tres semanas por la zona de Shansi y Shanhsien, han manifestado que se han visto muchos aviones rusos los que son manejados por aviadores de la misma nacionalidad

Shanghai, noviembre 24, - Siansfu se ha convertido en la base aérea más importante de China. La escuela de aviación está dirigida por oficiales rusos que están preparando actualmente a 200 aviadores chinos

FUERON PROCLAMADOS LOS DOCTORES El primer ministro ofrecerá un banquete en su SE CONSTITUYO, EN LIMA EL INSTITUTO CULURAL PERUANO-JAPONES

Informaciones del Perú, traen la noticia de la constitución en Lima de un centro cultural denominado: Instituto Cultural Peruano-Japonés.

La nueva institución fué inaugurada el día 3 de noviembre en presencia del Encargado de Negocios del Japón, autoridades del gobierno del Perú, numerosos caballeros peruanos y nipones.

Preside la Institución el señor Manuel Elías Bonmaison.

Dr. TERAJIMA ESTUVO EN MONTEVIDEO

El Encargado de Negocios del Japón, Dr. Hirobumi Terajima, estuvo en Montevideo, para despedirse del Ministro de Relaciones tExeriores del Uruguay, con motivo de su próximo viaje.

DESTRUYERON UNA FABRICA DE GASES **VENENOSOS**

Tiensing, noviembre 25. — Un avión japonés atacó la fábrica de armamentos de Shanhsien del F. C. Lung Hai, destruyéndola totalmente.

En este establecimiento se fabricaba gases ve-

ENVIADO EXTRAORDINARIO DEL JAPON EN LONDIES

Londres, noviembre 24. — En la visita que el señor Hatoyama, enviado Extraordinario del Japón, hizo en compañía del Embajador Yoshida al Ministro de Relaciones Exteriores, señor Eden, este expresó su pesar por la manifestación antibritánica, realizada en el Parque Hibiya de Tokío, el señor Hatoyama atribuyó esos desahogos populares al convencimiento que existe en la opinión pública de que los residentes británicos fomentaban la lucha actual y que comprensivo como es el pueblo japonés variará sus sentimientos actuales hacia Gran Bretaña, si esta medifiease su actitud manifestando estar dispuesta a comprender las causas de la actitud punitiva del Japón en China y prestase su colaboración para asegurar el orden y la paz en el Extremo Oriente.

En la visita que el señor Hatoyama, enviado especial del Japón, hizo al Primer Ministro Chamberlain, le expresó los puntos de vista del conflicto chino-japonés, vistos desde Tokío y desde Shanghai.

En el curso de la conversación que se prolongó por espacio de una hora le significó que el Comandante de la Tercera División Naval Japonesa, señor Hasegawa, hizo cuanto estuvo para que los males de la lucha afectase en lo mínimo

Tanto Eden como Chamberlain, se mostraron comprensivos a las manifestaciones del delegado



Escuelas Profesionales Japón en el

Por SOICHI OKABE

Propalada por L. R. A., Radio del Estado

to Cultural Argentino-Japonés, me es sumamen- politécnicas, 12 agrícolas, 11 comerciales, 2 de

una instrucción adecuada en las escuelas, no podrá hacer frente a la lucha por la vida, no po drá hacerse cargo del porvenir de la nación y no podrá contribuir al progreso y a la prospe ridad de la humanidad.

países civilizados ha provenido, a mi juicio, principalmente, de la equívoca orientación profesio nal dada en las escuelas superiores, esto es, que algunos intelectuales no están dotados de las condiciones necesarias para luchar en la vida El número total de profesores y alumnos es de práctica por más eruditos y cultos que ellos sean.

Este problema que nos ocupa constituye en el Japón una preocupación primordial para los gobernantes y para el pueblo. En efecto, tanto las autoridades nacionales, provinciales y comunales como los educacionistas particulares prestan, desde hace más o menos treinta años atrás, singular atención sobre la orientación profesional de la juventud, estableciendo numerosas escuelas en todos los ámbitos del territorio japonés. Todos estos esfuerzos realizados en pro de esa obra im- de laboratorios o de usinas, pero si demuestran portante se han visto coronados por pleno éxito en sus cargos capacidad e inteligencia, podrán y puedo asegurar que en cuanto se refiere a la ocupar, al cabo de 10 ó 15 años de servicios pueseducación profesional, el Japón no tiene, hoy en tos de importancia e incluso llegar a formar pardía, nada que envidiar a las naciones europeas o americanas más civilizadas y progresistas.

La educación profesional en el Imperio puede clasificarse en tres categorías, auxiliar, secundaria y superior. Una vez que el niño concluya los 6 años de la instrucción primaria que es estrictamente obligatoria, se inicia la enseñanza auxliar que dura por espacio de dos años y en la cual se obtienen nociones de comercio, industria o agronomía apropiadas a cada región. La secundaria es destinada a aquellos niños que quieran obtener conocimientos profesionales más amphos. En las escuelas de esta categoría se estudia por el término de 4 ó 5 años y sus egresados prestan servicios importantes al comercio e industria.

La categoría superior es peculiar y muy desarrollada en el Japón, a la par de la enseñanza universitaria propiamente dicha. En los establecimientos de esta categoría se admiten únicamente los egresados de liceos o de escuelas profesionales que acabo de citar anteriormente. El estudio en ellos es de 3 a 4 años de duración y la instrucción que se da, es, por decirlo así, intensiva del programa universitario, pero en forma más práctica, por lo tanto, los alumnos deben asistir obligatoriamente a clase 5 ó 6 horas diarias. Los egresados de estas escuelas superiores, aunque no ostentan el título universitario de 'gakushi" o doctor, constituyen elementos realmente eficaces para la industria y comercio del Japón, cuyo extraordinario desarrollo se debe considerablemente al aporte profesional de ellos.

A continuación, demostraré el desarrollo de la educación profesional del Japón con algunas cifras. Según las estadísticas oficiales del año 1934, existen 15.140 escuelas profesionales de la catetarios, Señores Julio Venavides y G. Yoshio goría auxiliar con 21.951 profesores y 1.271.530 Shinya; Tesorero, Sr. Jacinto Baldassarre Torres: En cuanto a la categoría existen 839 establecimientos cuyos estudios tie- Casas, Dr. Eduardo Crespo, Dr. G., Garbarini nen una duración de 5 años con 14.323 profesores y 276.982 alumnos; y además 202 establecimientos de la misma categoría, pero con un término de estudios de 4 años, con 1.834 profesores y 39.864 alumnos. Entre estas escuelas las hay de comercio, de industria, de agronomía, de marina mercante, de pesca, de artes aplicadas, etc.

Con respecto a la categoría superior, existen 54 establecimientos de los cuales 45 pertenecen al Estado. El número de profesores y alumnos asciende a 2.146 y 23.082 respectivamente. Las Honorario del mismo.

Accediendo a la amable invitación del Institu- escuelas superiores del Estado se dividen en 18 te grato ocupar este micrófono para hablar sus- marina mercante y 2 de pesca. También existen cintamente acerca de las escuelas profesionales en Corea 1 escuela comercial, 1 politécnica, 1 agrícola y 4 de medicina; y en Formosa 1 co-La orientación profesional de la juventud es mercial y 1 industrial. Además de las escuelas uno de los problemas primordiales en todos los superiores profesionales propiamente dichas, hay países del mundo. Si la juventud no ha recibido 14 establecimientos de altos estudios que pertenecen al Estado y que son: 2 de lenguas vivas, 1 de bellas artes, 1 conservatorio de música y 10 de medicina, de farmacia, etc.

Como he dicho anteriormente, estas escuelas superiores han obtenido un gran éxito en el Ja-La crisis de intelectuales que prevalece en los pón debido a su eficiencia profesional y a la duración de estudios relativamente corta.

Por último, debo decir también que hay en el Japón propio 45 Universidades de las cuales 18 son del Estado, 2 provinciales y 25 particulares. 7.700 v 91.000 respectivamente.

Los doctores en derecho, ciencias económicas, ingeniería, agronomía, etc. recién diplomados prefieren generalmente el empleo en grandes empresas industriales o comerciales a la profesión libre por cuanto ésta ha cesado, desde mucho tiempo atrás, de ser lucrativa debido a la intensa competencia. Ellos aceptan cargos como empleados o técnicos subalternados y se dedican en general a los trabajos rutinarios de oficinas, te del directorio.

Como podrán darse cuenta fácilmente por lo que acabo de exponer, la orientación profesional de los diplomados universitarios en el Japón, es distinta a la de los de la Argentina donde todavía la profesión libre es de preferencia general. Sin embargo, no dudo de que en un futuro no muy lejano, los universitarios argentinos se dedicarán también en forma más intensa a las actividades comerciales e industriales y a la explotación de la inmensa riqueza natural de este suelo fecundo y contribuirán así eficazmente al engrandecimiento de esta gran República.

Antes de terminar mi breve exposición quiero hacer notar que casi todos los alumnos que egresan de las escuelas profesionales de distintas categorías encuentran ocupación con relativa facilidad, va ten la administración nacional, provincial o comunal, ya en la industria o comercio desarrollados últimamente en forma extraordinaria. a tal punto que en el Japón no existe prácticamente la desocupación o crisis entre esos profe sionales aun en épocas le depresión económica.

INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO **JAPONES**

Nueva Comisión Directiva

En la Asamblea General Ordinaria, que se realizó el 23 del corriente, en la que se renovó la mitad de los miembros de la Comisión Directiva, quedó establecida la siguiente composición de las autoridades del Instituto Cultural Argentino-Japonés, para el próximo ejercicio, 1937-1938.

ce-presidente, Almirante Pedro S. Casal; Secresecundaria Vocales General Alonso Baldrich Dr. José O. Islas, Sr. Carlos C. Ishiy, Sr. S. Mimoto, Sr. Yonehei Nakamura, Dr. A. Pugnalin, Dr. Angel H. Roffo, Ing. Domingo Selva, Sres. S. Takaichi y K. Yokohama; Suplentes: Sres. José O. Boggiano, Jorge Guerrero, Y. Ishikawa, Isamu Ogawa y Kanzo Ohno.

La Asamblea formuló un voto de agradecimiento al ex-ministro del Japón, Dr. Jiro Yamasaki,

SOBRE EL INTERCAMBIO CULTURAL

Ha existido siempre un intercambio entre los pueblos, si bien muy limitado en los tiempos pasados por razones varias, especialmente etnográficas y falta absoluta de conocimientos, pero el progreso general y sobre todo el adelanto en las comunicaciones, que facilitan el intercambio social, dió un impulso mayor para intensificar las relaciones entre los diversos países, enriqueciéndolos material y espiritualmente.. La naturaleza social del hombre, las características geográficas de la tierra y la sabia distribución de los recursos naturales que difieren según la situación geográfica, indican que deben intensificarse los vínculos entre todos los pueblos de la tierra.

El canje de productos fué, por supuesto, lo primero que prosperó y generalizó desde los tiempos más remotos, porque ello fué y es vital para su existencia misma, especialmente cuando los hombres tienen miras de mejorar sus condiciones

Pero, ni en la antigüedad, el intercambio se limitó al tráfico de mercaderías. Grecia aprendió en el Oriente, muchas de sus sabidurías; Roma, que superó en el arte de gobernar y en la pericia militar, tuvo por fuente esperiritual de su civilización, a la Grecia, que fué su maestra.

En los tiempos modernos, el Japón, cuya evolución admiramos, calificándola de maravillosa, es el resultado también de la aplicación de aquellos principios. El Emperador Meiji, organizador del Japón moderno, inspiró, que era menester adquirir conocimientos profundos de todas las ramas del saber humano, de todos los pueblos a fin de modificar y mejorar las condiciones generales de la nación con vistas al progreso.

En cuanto a nosotros, el conocimiento del Japón trae aparejado el conocimiento de China y de los demás países del Oriente. Por ello existe la conveniencia de intensificar los intercambios culturales y de turismo entre Japón y los demás países de Occidente De ahí la necesidad, más que la conveniencia de hacer cualquier sacrificio en obsequio de ese propósito y de esa finalidad.

Es con ese fin que el Instituto Internacional de Estudiantes de Tokio, acaba de poner a disposición del Instituto Cultural Argentino - Japonés, dos becas para que puedan ser disfrutadas por universitarios argentinos que deseen trasladarse al Japón y permanecer allí dos o tres años, a fin de hacer todo un curso de extensión universitaria y profesional; una de cultura japonesa y la otra de ciencias.

La Comisión Nacional de Cultura creada por el Gobierno de la Nación es una de las manifestaciones de la actividad intelectual y cultural de nuestro país. Esta organización cuenta con la subvención nacional anual de 120.000 pesos destinados para ser invertidos en becas.

Es de desear que las autoridades de dicha institución, consideren la conveniencia de extender su radio de acción hacia el Oriente, especialmente al Japón.

Jacinto Baldassarre Torres.

EDIFICIO PROPIO DEL MUSEO SOCIAL ARGENTINO

El martes 30 del corriente a las 18 horas se co locará la piedra fundamental del Edificio Propio del Museo Social Argentino, sobre el terreno Presidente, Almirante M. Domecq Garcia; Vi- que le donara la Municipalidad en la calle Co rrientes entre Callao y Rodríguez Peña, para cu ción, la subvención de 200.000 pesos.

En el 8.º piso del edificio del Museo Social, tendrá su seno el Instituto Cultural Argentino Japonés.

Los socios de ésta están invitados a concurrir al acto al que asistirá el presidente de la Na

COMERCIO ARGENTINO JAPONES

En ls primeros 10 meses del año, el comercia por sus valiosos apoyos prestados a favor del Argentino - Japonés, según datos oficiales argendesarrollo del Instituto, nombrándolo Miembro tinos fué: Importación, 39.664.000 y expertación 21.171.000 pesos.

Incidente del Norte de China

EXPLICADO EN UN FOLLETO PUBLICADO POR LA ASOCIACION DE RELACIONES EXTERIORES DEL JAPON

(Continuación).

Esto no significó la guerra. Los jefes del Gobierno Japonés, están todavía persiguiendo el fin que han tenido en vista desde el disparo ini-

local. Y si sus serios esfuerzos fracasan, y un mayor conflicto se hace inevitable, la opinión mundial admitirá que la responsablidad no será

DECLARACION DE SIR AUSTEN CHAMBER-LAIN EN LA CAMARA DE LOS COMUNES, EL 30 DE MARZO DE 1927

Yo estoy en condiciones de suplementar mi decial y están luchando persistentemente para lo- claración del otro día, por hechos derivados en grar un arreglo rápido y local del incidente de parte, directamente de fuentes británicas, y, en China del Norte, el cual es un asunto puramente parte, de información suministrada al Ministerio

de su Majestad en Peking, por representantes americanos y japoneses. El saqueo fué efectuado por soldados en uniforme, que pertenecían a formaciones bajo el mando del general Cheng Chien. ... Mujeres extranjeras, incluyendo a la señora Giles, la esposa del cónsul general de Su Majestad, fueron completamente revisadas y rudamente despojadas de sus objetos de valor. Muchas, quedaron, con los vestidos desgarrados, y dos mujeres americanas fueron salvadas de tentativas de violación Estos hechos se pueden estableler por testimonios bajo juramento...

DECLARACION BAJO JURAMENTO DE LA Sra. GILES, LA ESPOSA DEL CONSUL GE-NERAL BRITANICO EN NANKIN, PUBLICA-DA COMO UN LIBRO DEL MINISTERIO DE RELACIONES EXTERIORES BRITANICO (30 DE MARZO DE 1927)

... Tres soldados inmediatamente me agarraron, arracaron los anillos de mis dedos, infligiendo considerable dolor, y arrebataron el prende-dor de mi vestido y la cadena del cuello, también el reloj y el brazalete de la muñeca. Sacaron los zapatos de mis pies y palparon para ver si había algo en mis medias. Maltrataron con gran brutalidad. La señora Robert, y la señorita Blake fueron tratadas en la misma forma... Una vez, varios hombres entraron con la espada del verdugo, y la sostenían a una pulgada de la garganta de mi marido. Otro hombre blandió un cuchillo de trinchar. Otros, trataron de arrancar los vestidos de mí, y de otras damas en la reunión...

FIN

APENDICES

LAS FUERZAS CHINAS EN LA PROVINCIA HOPEI ANTES Y DESPUES DEL INCIDENTE (AL 21 DE JULIO)

Antes del

		incidente	Ahora	Aumento
El Ejército Cen- tral (bajo el control de Chiang Kai Shek)	Ejér. Liu Chih Ejér. Li Moan	0	17.000	17.000
El Ejército Cen- tral (bajo centro indirecto)	Ejér. Pinghsun	7.000	58.000	51.000
Ejércitos {	Ej. Sun Cheyuan Ejér. Wan Fulin Ej. Fen Chanhai	57.000 16.000 15.000	59.000 16.000 15.000	2.000
TOTAL		95.000	165.000	70.000

"NAMBEI"

Compañía de Importación y Exporta-ción Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904

SARMIENTO 470 BUENOS AIRES

H. KATO

Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tinterería

HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841

SADAO HATTORI

IMPORTADOR

Especialidad en artícules de Cepillería

LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 3218

KATSUDA y Cía.

MEXICO 1474 - U. T. 38, Maye 2816

B. TAKINAMI

Casa Establecida en el año 1905

VICTORIA 738 - U. T. Mayo 38-3418

I. HIROTA

Importador de artículos generales del Japón

CMILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051

N. IKEDA

The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 38 - 4081

T. NISHIZAWA

Representante de

Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda.

FLORIDA 229

S. YAMADA y Cia.

Importadores

MORENO 2039 U. T. Cuye, 47-4354 y 4405

IIDA y Cía. Ltda. (Takashimaya)

Importadores y Expertadores

RODRIGHTZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419

R. HARA y Cía.

Importadores

BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 940

CARLOS C. ISHIY

Importador y Exportador

Bmé. MITRE 341 - U. T. 38 Avda. 9785

S. YOKOBORI

Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 409 3er. Piec Escr. N.o 21-22 - U. T. 38-9390

TARO MURAI

Unica Casa Introductora de

Percelana "NORITAKE"

MAIPU 468 - U. T. Retiro 31-8169

F. KANEMATSU y Cía. Ltda.

Importaciones y Exportaciones

JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824

PIDA SIEMPRE

Marca KANEBO

PARA TEJIDOS

Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7682 8.º piso Oficina D

M. OMURA

Impertador de artículos generales del Japón

SAN MARTIN 285 - U. T. 38-2663

S. ANDO y Cia.

importadores

DEFENSA 532-40 U. T. 38 (Av.) 2296;

JIRO HONDA y Hno.

Importadores de Artículos Generales del Japón

MORENO 1320 - U. T. 38 Maye 2718

Casa "YAMANAKA"

VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846

K. YASUNAGA

Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería

DEFENSA 1597 - U. T. 38-7769

S. TSUJI

Importador

BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744

LA MAISON SATUMA

K. YOKOHAMA

Objetos de Arte y Antigüedades

ESMERALDA 1080 - U. T. 31 - 8601

Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837

G. KATO

(C. YUASA) Representante de

KATO BUSAN KAISHIA Ltd.

Av. Roque Sáenz Peña \$25 U. T. 35 - 5696

Sastrería JAPONESA Fundada en el año 1916

de S. KATAYAMA

PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452

GUIA JAPONESA

LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193.

CONSULADO DEL JAPON:: Reoonquista 336. U. T. 31-3193.

INSTITUTO CULTURAL ARGENTI-NO-JAPONES: Viamonte 1435.

ASOCIACION JAPONESA: Pata-

gones 840. — U. T. 23-4893.

COMPAÑIA DE VAPORES O. S. K .: ROQUE S. PERA 616 - 2.0 Pies U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3665